



環境に配慮した工場とオフィス

製品の生産プロセス全体を通じて、節電や設備の改善による地球温暖化防止対策、廃棄物削減活動などに取り組んでいます

事業活動と環境負荷

富山事業所では、製品・サービスを提供するために、資源やエネルギーなどを投入し、結果としてCO₂や廃棄物などを排出しています。これらの投入量や排出量を把握し、有害化学物質の削減やエネルギー使用効率の向上に努めています。

なお、原材料の調達段階および製品の環境負荷削減についての取り組みは、それぞれ「責任ある調達活動の推進」のページおよび「環境にやさしい次世代製品」のページで紹介しています。

Input		
エネルギー		
電気	21,857MWh	(+15%) [212,061GJ]
燃料油(重油・灯油)	145kL	(+23%) [5,553GJ]
ガス(都市ガス・LPG)	51千m ³	(+10%) [5,398GJ]
原材料		
原材料・部品	180t	(+40%)
梱包材	467t	(+30%)
紙	20t	(+32%)
化学物質		
PRTR ^{*1} 化学物質取扱量	2.7t	(+14%)
水		
上水、工業用水	156千m ³	(+13%)
上水	10千m ³	
工業用水	146千m ³	

当社および
グループ会社の
国内製造拠点
事業活動

製品・サービス

Output		
排ガス		
CO ₂ 排出量 ^{*2}	10,077t	(+12%)
直接CO ₂ 排出量	700t	
間接CO ₂ 排出量	9,377t	
SOx	0.0Nm ³	(0%)
NOx	243Nm ³	(+98%)
廃棄物・有価物		
排出量	513t	(+13%)
最終処分量	1t	(0%)
化学物質		
PRTR化学物質 排出・移動・リサイクル	0.3t	(-42%)
排水		
排水量	156千m ³	(+13%)
浄化後河川	156千m ³	
BOD	0.7 t	(+32%)

* 1 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) …化学物質排出移動量届出制度

* 2 CO₂ 排出量…算出に使用したCO₂電力換算係数は、2005年のIEA(国際エネルギー機関)の国別換算係数を使用

()内は2016年度比を示します。

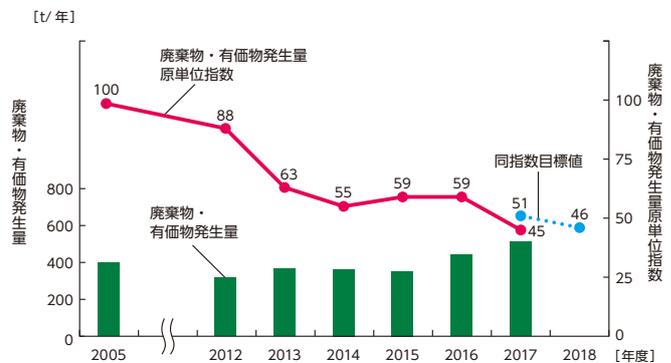
廃棄物の削減(富山事業所)

富山事業所では、廃棄物・有価物発生量を抑制する取り組みとして、廃棄物・有価物発生量原単位指数の改善を図っています。2018年度に46(2005年度比で54%改善)とする目標を掲げて取り組んでいます。

2017年度は梱包材の削減、廃棄や収集時の分別に努めました。社内教育にて分別促進を啓発し、各自の廃棄物分別の意識を高めます。

また、埋め立て処分となる廃棄物の削減を行っています。廃棄物の再資源化に取り組み、これからも埋め立て処分量を無くす(ゼロエミッション)活動を継続します。

■廃棄物・有価物発生量と原単位の改善推移





環境に配慮した工場とオフィス

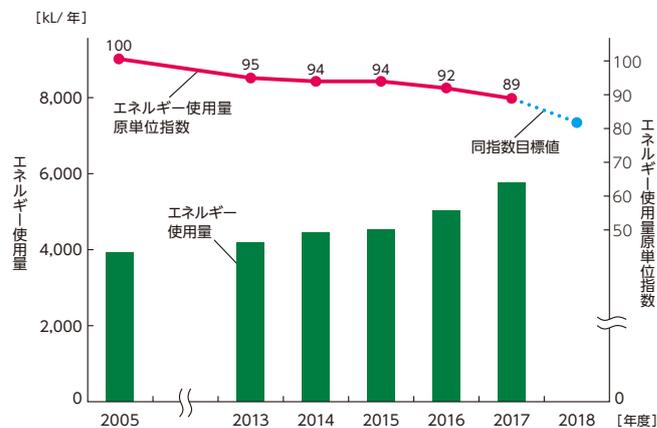
製品の生産プロセス全体を通じて、節電や設備の改善による地球温暖化防止対策、廃棄物削減活動などに取り組んでいます

地球温暖化防止・省エネルギー (富山事業所)

富山事業所ではプロセス開発に伴う評価設備のエネルギー使用が大半を占めます。無駄なアイドルングを削減し環境負荷の少ないプロセス開発に努めています。2017年度は、取組み対象を一部拡大し、エネルギー使用量原単位指数を2018年度に82(2005年度比で18%改善)とする目標を掲げて取り組んでいます。2017年度は、エネルギー使用量原単位指数は89(2005年度比で11%改善)となりました。

設備面の取り組みとして、2017年度は、高効率空調機器への更新、LED照明への更新などを実施しました。運用面の取り組みとしては、2005年から政府が推進する地球温暖化防止国民運動に賛同し、「クールビズ」「ウォームビズ」の実施、「ライトダウンキャンペーン」への参加を継続しています。

■エネルギー使用量と原単位の改善推移



廃棄物の適正処理の追求

富山事業所は、製品製造時の清浄度を向上させるためにクリーンスーツ (CR服) および軽作業帽 (ヘルメット) を次世代環境型に交換しました。その際に発生する廃棄物は従来の処分方法では廃プラスチックとしてRPF (固形燃料) に再利用されましたが一部の残渣が最終処分 (埋立て) されます。今回、製造メーカーの広域認定制度*を利用した回収システムを活用し100%マテリアルリサイクルへ変更しました。廃棄物を委託処分する当社としては処分技術の動向を注視し、より適正な処分方法へ見直しを行います。

■マテリアルリサイクル概要



* 広域認定制度…製造事業者等が、廃棄物となった自社製品を、ユーザーから回収しリサイクル。製造業者が処理を担うことにより、製品の性状・構造を熟知していることから高度な再生処理が期待されます。

ライトダウンキャンペーンへの参加

当社グループでは、環境省主催の「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に毎年参加し、夏至の日と七夕の日の夜、国内各拠点において看板照明等のライトダウンを実施しています。

また、2018年3月24日に実施された世界自然保護基金(WWF*)主催による「Earth Hour」に参加し、国内拠点だけでなく海外製造拠点も含めてライトダウンを実施しました。

* WWF…World Wide Fund for Natureの略

■Kokusai Electric Korea Co., Ltd.の建物看板灯、外灯ライトダウン



消灯前

消灯後